

A-1

☆ 記入例

氏名 郡山三郎 学年 小3年 障がい名等 ASD ADHD 作成日 ××年×月××日

1 個々の実態を的確に把握する

① 障がいの状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ等

- ・学級のルール等について、内容は理解しているものの実際の場面になると、自分がやりたいことを優先してしまうことが多い。
- ・教科学習の理解はよく習得も速いが、出し抜けに答えたり、友だちに伝えたりしてしまう。
- ・人や物にぶつかることが多いが、ぶつかったことに気づかないためにけんかになることがある。
- ・昆虫など小動物が好きで、校庭で見つけると捕まえてくるが、突然、友だちの前に突きつけて驚かせる。
- ・体を動かすことは好きだが、球技など道具を操作する活動が苦手で、ゲームの途中で投げ出してしまうことがある。
- ・突発的な発言で友だちを泣かせたことを指摘されても、なかなか謝ることができないことが多い。落ちついてから話すと「泣かせたのは僕が悪かったかもしれない」と言う。
- ・最近、失敗した後に「なぜ、うまくいかないんだろう」と失敗した自分を責めるような場面が見られる。
- ・役割を与えられたり、取組を認められたりすると熱心に活動する。

② 収集した情報を自立活動の区分に即して整理する。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	・失敗した後に、自分を責めて不安定になることが多い。	・他者とかかわりたい、役立ちたいという気持ちが強い。 ・落ち着いていれば、相手の心情を理解できるが、その前に行動してしまう。	・聞くより見る方が理解しやすい。 ・周囲の状況を考えることに困難がある。	・人や物にぶつかる。 ・道具をうまく扱えないことがある。	・人に話して伝えることが好きである。 ・相手の立場を意識することが難しく、自分の話題が多い。

収集した情報を3年後(中学進学後)の姿の観点から整理

- ・周囲の状況を理解することの困難さや衝動的に行動してしまうことが、学習面や人間関係に影響することが心配される。
- ・失敗経験が重なると、学習や生活に対して意欲や自信が低下することが考えられる。
- ・状況に応じた行動を理解し、身に付けることで、本人も安心して力を発揮できると考える。

2 実態把握に基づいて課題同士の関連と指導すべき課題の整理

【課題同士の関連】

- ・自分の行動がどのような影響を及ぼすかを想像したり、周囲の人の表情や口調等から読み取ったりして、適切に判断して行動することやルールを守ることなどが難しいと考える。
- ・周囲の状況を理解したり、自分の体の動きのコントロールが難しかったりするところから、心理的に不安定になったり、自分ができていることに衝動的になったりすることがあると考える。

【指導すべき課題】

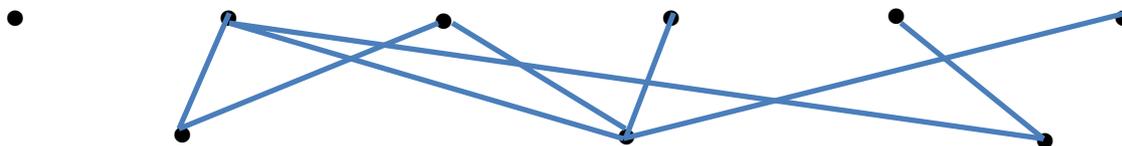
- ・自分が行動している周囲の状況の把握、他者とかかわりや、状況に応じた行動や状況に応じたコミュニケーションが課題であると考えられる。
- ・分かっているにもかかわらず衝動的に行動してしまうこともあることから、自己理解と行動の調整について指導。
- ・自己肯定感が低くなっている様子が見られ、役割を与え、達成できる経験を通して自己効力感を高める。

3 今、指導すべき目標として

- 様々な場面を理解する学習やゲーム的な活動を通して、周囲の状況を把握する力を高めるとともに、状況に応じた言動を理解し、実際に使うことができる。
- ルールを意識して、身体を動かすゲーム的な活動等を通して、身体の粗大運動でのボディイメージをつかんだり、衝動的な行動をコントロールするなどの自己の行動を調整したりすることができる。

4 指導目標を達成させるための必要な項目選定

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障がいの特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	① 情緒の安定 ② 状況の理解と変化への対応 (3) 障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわりの基礎 ② 他者の意図や感情の理解 ③ 自己の理解と行動の調整 ④ 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 ⑤ 状況に応じたコミュニケーション



指導内容	○小集団において、ルールを守ることやうまくいかなかった時の対応方法などを身に付けるため、簡単なルールのあるゲーム等に取り組む。	○状況に応じた言動を身に付けるために、学校生活の中で起こる様々な場面を絵で見て、その場面の登場人物の気持ちや状況に応じた言動について考えたり、学んだりする活動に取り組む。	○ボディイメージや衝動的な行動を自己調整できる力を高めるために、身体を動かすゲーム等を設定する。
場面指導	教育活動全体 時間における指導	教育活動全体 時間における指導	教育活動全体 時間における指導
評価	・「連想ゲーム」「スリーヒントクイズ」などに取り組みました。最初は… …次第に、自分が言いたいことがあっても、ルールを守って発言の順番を待ったり、うまくいかない場面でも「まあ、いいか。」と気持ちを切り替えたりすることができました。	・「こんな時どうする」では、「手伝ってほしい場面」を取り上げ… …実際の場面でも、「ごめん、○○君、手伝って。」とやさしく言葉で伝えることが増えてきました。	・「協力ボール運びリレー」「風船バレー」などに取り組みました。最初は… …様々な身体を動かす活動を通して、対象物(ボール等)を見て、動きを合わせて手や足を動かす力が高まってきました。また、友だちと協力する活動を通して…

【次年度に向けた引き継ぎ】

○授業中に出し抜けに答える等の場面が減り、行動調整ができるようになってきた。また、本人が学んだ状況に関しては、状況に応じた言動がとれるようになってきている。ただし、状況に応じた言動については、場面によってどういう行動をしたらよいのかが、そもそも分からない様子が見られたので、引き続き、学校場面を様々な絵を用いて、指導していく必要がある。